

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 4 月 5 日 (2007.4.5)

【公表番号】特表 2006-517670(P2006-517670A)

【公表日】平成 18 年 7 月 27 日 (2006.7.27)

【年通号数】公開・登録公報 2006-029

【出願番号】特願 2006-503224(P2006-503224)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/493 (2006.01)

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

A 6 1 K 33/06 (2006.01)

A 6 1 K 31/198 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/12 (2006.01)

A 6 1 P 13/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/493 A

G 0 1 N 33/68

A 6 1 K 33/06

A 6 1 K 31/198

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 9/12

A 6 1 P 13/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 1 月 31 日 (2007.1.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

患者が子癇前症を起こしているかどうかを判定する方法であって、

マリノブファゲニンを含む検体を取得し、

尿を検体として使用し、

マリノブファゲニンのレベルを検出し、

前記マリノブファゲニンのレベルを、正常な者のマリノブファゲニンの範囲と比較し、マリノブファゲニンのレベルが前記正常な者の範囲から有意の増加があるときを、子癇前症であることの指標とし、及び

マリノブファゲニンが、正常な者のマリノブファゲニンの範囲よりも約 50% 以上増加しているとき、マリノブファゲニンに有意の増加があると判定される、方法。

【請求項 2】

マリノブファゲニンの濃度を、正常な者のマリノブファゲニンの濃度範囲と比べて有意の増加があるときを、血管収縮の有無とは関係なく子癇前症であることの指標とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

マリノブファゲニンに有意の増加があると判定されるのは、その増加が正常な者のマリノブファゲニンの範囲から約 100 ~ 200 % のときである請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

マリノブファゲニンが、正常な者のマリノブファゲニンの範囲と比べて有意の増加があるときを、環状AMPの有無とは関係なく子癇前症であることの指標とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

マリノブファゲニンが、正常な者のマリノブファゲニンの範囲と比べて有意の増加があるときを、他の種類の高血圧の有無とは関係なく子癇前症であることの指標とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

患者が子癇前症を起こしているかどうかを判定する装置であって、

マリノブファゲニンを含む患者の検体を収容する試料容器であって、尿を検体として使用することができるように構成された試料容器と、

正常な者のマリノブファゲニンの範囲に対するマリノブファゲニンのレベルを測定するアナライザーと、を具えており、マリノブファゲニンが、正常な者のマリノブファゲニンの範囲から有意の増加があるときを、子癇前症であることの指標とし、

アナライザーは、マリノブファゲニンの増加が、正常な者のマリノブファゲニンの範囲の約 50 % 以上であるときを有意の増加があると判定する、装置。

【請求項 7】

アナライザーは、マリノブファゲニンの増加が、正常な者のマリノブファゲニンの範囲の約 100 ~ 200 % 以上であるときを、有意の増加があると判定する請求項 6 に記載の装置。

【請求項 8】

患者が子癇前症を起こしているかどうかを判定し、子癇前症を治療するための方法であって、

患者の検体にマリノブファゲニンの有意の増加があるかどうかを判定し、

尿をマリノブファゲニンの源として使用し、

マリノブファゲニンに有意の増加がある場合、患者の子癇前症を治療し、及び

マリノブファゲニンが、正常な者のマリノブファゲニンの範囲よりも約 50 % 以上増加しているとき、マリノブファゲニンに有意の増加があると判定される、方法。

【請求項 9】

マグネシウム含有薬の投与、アルファメチルドーパの投与、安静療法及び出産からなる群から選択される少なくとも 1 つを治療として行なうことを含んでいる請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

マグネシウム含有薬とアルファメチルドーパを共に投与することを含んでいる請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

治療は、マリノブファゲニンに対する抗体を使用することを含んでいる請求項 8 に記載の方法。